

# 月刊 まち・コミ 2008年8月号

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>



● 今月の注目記事 ● P1～P7上 台湾台北縣淡水鎮へ古民家移築！

## 台湾台北縣淡水鎮へ古民家移築！

～ 震災で学んだ助け合いと先人の知恵を、友と共に台湾へ、  
台日交流古民家移築事業開始までの道のり ～

神戸市長田区御蔵地区の、2000名関わった古民家移築集会所完成（2004年1月）後、その感動をもう一度と、被災地台湾との交流から、台日交流古民家移築事業を開始しました。想いの始まりから既に丸3年。長い道のりでしたが、台湾や日本の心暖かい応援とご協力により、ようやく建設準備が始まりました。

古民家は、台湾台北縣台北市淡水鎮の平和記念公園の中に、若州一滴文庫（福井県大飯郡おおい町岡田、作家水上勉氏開設）の名前の由来でもある、一滴の精神（1）を感じられる場として建てられます。水上勉、陳舜臣の書籍を揃え、建築文化保存の役割も果たします。日本の大工を先頭に多くの台湾や日本や全世界の若者や関係者が、現場で共に汗を流し、また周りも応援する建設プロセスやその後の交流を通じて、台日や世界の平和交流を推進します。

2008年7月21日、台湾台北縣台北市淡水鎮の役所で贈呈式が行なわれ、2005年に解体した福井県大飯郡おおい町（当時は大飯町）の古民家木材（水上勉氏の父覚治氏が棟梁）と、水上落子氏（水上勉氏長女）から寄贈していただいた水上氏の書籍約200冊を、事業主体となる淡水鎮の鎮長である蔡葉偉氏に、お渡ししました。

今後の予定は、11月中旬に建設工事を開始し、2009年春の完成を目指しています。

今回は、これまでの道のりを振り返ります。



2008年7月21日、贈呈式を行いました

### 交流 - 想いの始まり

今回のプロジェクトの始まりは、台湾と日本の地震によって生まれた、どの人でも持っている「心」から始まりました。復興の中で、人が人を助け合う良さを感じ、少しでも他人の力になろうとした「心」です。

2000年1月18日、ピースボートの誘いで、1999年9月21日の台湾集集大地震の被災地へ田中（まち・コミ顧問）が向かいました。そこで出会ったのが邱明民氏（元台湾希望工程協会代表）です。そこで、多くの助け合いを田中は感じ、これからの生活に大きな力になると考えました。その後、御蔵地区の住民は、台湾の復興活動の様子を、田中から積極的に聞きました。そして、彼女達は、神戸の復興過程で何か違うと苦しんだ経験から、台湾の住民へ寄り添ってできることはないだろうかと思い、台湾の被災地を励ましにいこうと、

すぐに準備をし、3月には地区住民とまち・コミ総勢15名で、台湾被災地へ向かいました。（詳しくは月刊まち・コミ2000年3月号）

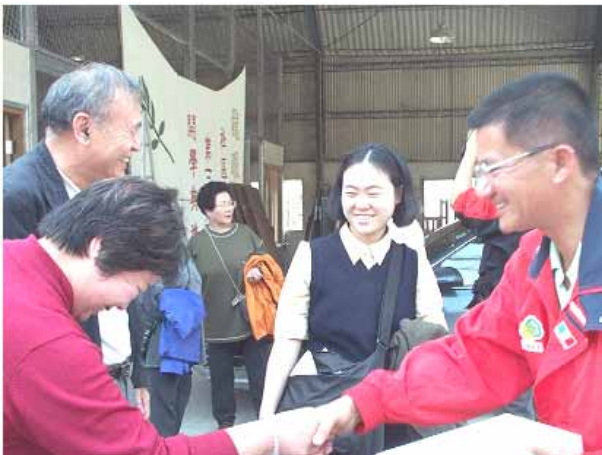
その後もまち・コミは、多くの共感を得るため、台湾の被災地の現場へ向かいました。台湾の被災地でも同じように苦労し、そして、希望を持って前に進んでいる人がいると。3月後半に再調査に行きました。（詳しくは月刊まち・コミ2000年4、6、7、8月号）台湾に行くと、共感できる人、環境があり、参加した皆の心が何か温かくなりました。

2001年2月再度訪台。前回台湾で知り合った服部くみ恵氏（東京芸術大学在学）も加わり第一陣（現地交流）20名、第二陣（調査交流）5名と交流はパワーアップ。台湾の現場と御蔵地区の現場の住民が交流してほしいと思う人が増えました。（詳細は、2001年5月号）

2001年6月には田中が、APECの会議に呼ばれ、講演しています。

2001年7月29日30日に台湾をおそった台風の励ましに、李浩麗氏（台湾生まれ神戸在住）主催の「台湾桃芝台風被災者支援チャリティーひまわりコンサート（9月12日 in 舞子ピラ）」に協力し、被害の大きい地区の子供たちに奨学金として渡しました。

2002年は御蔵地区へ移築する民家の解体工事に学生や住民で盛り上がりました。この間邱氏や台湾の方が日本へ復興まちづくりの調査で3



台湾の人々との多くの出会いがありました



交流団を結成し、日本から訪問しました



蔡さんによるプレゼンテーション

度訪日されました。その勢いで、参加した学生や交流のある佐用町住民やまち・コミ運営委員も加わり地域住民と共に総勢21名、2003年2月に三度目の交流旅行に訪台しました。彰化縣の永樂社區を訪ね、彰化縣長（県知事）翁金珠さんと、廃物を利用した集会所で昼食を共にし、まちづくりを語り合いました。

往來の交流から、台日の若者が一緒に汗を流す古民家移築事業へ - 古民家の解体

この事業に興味をもたれた福井県大飯町の方から「私の家もぜひ活用してほしい」との依頼がありました。その民家は棟札によると、作家水上勉氏の父で大工である覚治棟梁が大正4年に建てたものでした。2002年9月29日に見に行きました。

2004年1月御蔵地区に古民家移築集会所が完成。2004年6月16日には、翁彰化縣長一行が神戸に来られ、御蔵の古民家移築による集会所にお招きしました。そのとき、翁縣長は「こんな風格のある建物を彰化縣にも欲しい」と申されました。大飯町の民家も、物語のある建物であり、そのまま解体されるのを見るのは、「一滴の精神」に反すると。御蔵の古民家移築では「旬」を学びました。事業計画や移築先は何も決まっていませんでした。古民家を移築することで得られる経験とその後の古民家が生み出す空間には絶対的な自信を持っていました。建物は、まだ幸い傷みも少なく、このまま早く解体したほうがよいと、「旬」は

今だと、2004年8月解体工事を開始しました。そこには、日本の学生約40名と共に、交流先の台湾の学生4名も良い経験になるからと参加しました。（詳しくは月刊まち・コミ2005年7・8月号）

台湾への古民家移築への模索 - 建設用地を求めて

解体の完了時、参加した学生から、「台湾の学生が解体に参加してくれたので、交流の証として、自分たちも参加し台湾で再建したい」と共に誓いました。解体から2ヶ月後の2004年10月古民家台湾移築への協力依頼のため、解体していただいた斉藤棟梁と共に、学生等7名で訪台しました。邱明民氏ほか台湾側の協力の元、北は台北台湾大学と文化建設委員会（台湾の文部科学省）への協力依頼に始まり南に南下し、南投縣、



解体に、多くのボランティアが参加しました



福井県大飯町の民家



民家の解体は、大勢の手を必要としました

彰化縣でも候補地を見、高雄の樹徳科技大学でシンポジウムも行いました。多くの方に古民家を見て欲しいということも今回の目的にありますので、神戸御蔵地区にも来ていただいた彰化縣長（縣長秘書邱明民氏）の紹介で、風光明媚な彰化縣八卦山の麓に計画しました。この時期、同時に日本では学生たちが解体時に描き興した図面を元に何百にも上る部材を使い、建物の模型も作っていただきました。

2005年1月にも訪台し、彰化縣の花博予定地も計画に入れました。4月には、陳其南氏（文化建設委員会大臣）と旧知であるまちづくり教祖宮西悠司氏（2002年度日本都市計画学会石川賞受賞）と共に、土地の協力の依頼をするため、訪台しました。なかなか良い土地が見つからない中、交流の意義を感じ、責任感の強い邱氏が7月には彰化縣の国有地を自ら購入するという案まで提案をされました。邱氏の熱意にうたれ、日本側も再度8月にも訪台し、台湾で補足する木材と瓦事情と既にある日式建物の調査、そしてまだまだ台湾中に土地が眠っているかもしれない。一番目立つ台湾総督府前（總統の官邸）で、テントを張って「徵求土地500坪」と書いて無謀にも土地を募集しました。すると数箇所私の土地を提供しても良いという方に出会いました。10月には兵庫県氷上郡氷上町に保存していた木材の保管が難しくなり、木材を輸出する運びになり、



土地提供の、協力者募集をしました

船会社へ輸送費について協力依頼しました。その過程で船会社の経営する公園の土地も如何ですかとお願いいただき検討しました。11月に木材を日本から輸出しました。12月の選挙で、古民家移築を理解してくださっている彰化縣知事が敗退。彰化縣への移築の可能性がなくなってしまうしました。12月に邱氏がほぼ毎日台湾中の数十箇所の土地の視察・交渉・応援依頼等で走り回りました。2006年1月に訪台し、まだ残る多く候補地から邱氏とともに、最適な候補地を検討しました。できるだけ多くの方に見てもらい、古民家が居心地の良い物語のある条件の良い土地はなかなか見つかりませんでした。邱氏のボランティア仲間である蔡葉偉氏が、淡水鎮鎮長に当選しました。蔡氏も、古民家移築交流事業に興味を持ってくれており、絶大なる協力を表明し、木材を保管する倉庫の協力をしてくださりました。2月14日には蔡鎮長自ら神戸御蔵の古民家を訪れてくださり、古民家移築のプレゼンテーションをしてくださりました。

2006年5月に、木材の腐食を防止するため、台湾淡江大学の学生や鎮の方が薬を塗ってくださり、木材の整理をしてくださりました。

2007年は一年かかって、淡水鎮の方が平和記念公園（2淡水の歴史参照）の予算を計上するのに努力をしてくださり、土地が決まりました。2008年5月に、特別な「記念性建築」の建



台湾の新聞でも、大きく取り上げられました

築許可が降り、建築できるようになりました。6月に藤川設計士に木材の調査に行っていたいただき、建築への見積もり等の作業に入りました。7月には、贈呈式と共に、解体の時にお世話になった斉藤棟梁と日本と台湾の学生を中心に、建設前の準備ワークショップ作業をしました。

一滴の精神を心に置きながら取り組みます。今後ともご指導、ご支援よろしくお願ひします。

これからの台日交流古民家移築事業の状況はまち・コミブログで報告していきます。

<http://machicomiblog42.fc2.com/blog-category-2.html>

過去の月刊まち・コミはWEBで見られます。ご興味のある方は郵送させていただきます。

<http://machi-comi.homeip.net/m-comi/magazine/index.htm>

### 1 一滴の精神

大飯町大島出身者に、儀山禅師がいる。儀山禅師がある日、若い雲水が風呂を沸かし、熱すぎるため水で薄め、残った水を捨てる様子を見て「その一滴の命が分からないのか。花や木がこの日照りで水を待っているのが分からないのか」と一喝した。この雲水はその日から適水と名を改め、大和尚になったとか。「一滴の水」というのは、この弟子の言葉。水上勉は「大飯町で掘り起こすべきは、故郷の先達のこういう精神であって、故郷を大量のエネルギーの浪費を支える原発などの場にすべきではない」と批判する。(参考:『一滴の



贈呈書を取り交わしました

力水』水上勉・不破哲三 光文社)

### 2 淡水の歴史

淡水鎮は歴史的にも、16世紀から西洋各国が国力拡張をめぐる海の覇権争いや軍事と経済の重要性を形成しつつ、常に北台湾の重要拠点である町である。よってまちに豊富な面貌を持っている。当時の台湾は既に中国、韓国、日本、南洋諸島などへの重要な防御拠点となり、また海上の頻繁な船便が行き来して、台湾はますます重要な経済、政治、軍事の重要拠点になった。やがて淡水は各国のほしい目標となった。オランダ、スペイン、イギリス、フランスそして日本などの帝国船隊が次々と淡水へ上陸、そして殖民、生活発展させ、様々な古跡、建築を建て、多様化された文化を残され、そのおかげで淡水は豊富な文化資産を築き上げている。侵略と平和のバランスを考える上でも良い土地である。



平和記念公園の完成予想図

最後に趣意書と現段階での応援団を掲載します。まだまだ多くの応援が必要になります。応援団になって頂ける方は、是非まち・コミまでご連絡くださいませ。

作業ボランティア、通訳ボランティア等、募集しております。

メール:m-comi@bj.wakwak.com

Tel:078-578-1100 Fax:078-576-7961

## 日台交流古民家移築事業における想いと これまでの経緯と募金のお願い(趣意書)

神戸市長田区御蔵地区の住民とボランティアは、台湾921集集大地震の被災地を過去三度訪問(延べ200人)し、被災者同士の交流の機会を持ってきた。

2003年3月、彰化縣の永樂社区を訪ね、彰化縣長(県知事)翁金珠さんと、廃物を利用した集会所で昼食を共にし、まちづくりを語り合った。2004年6月16日には、翁縣長一行が神戸に来られ、御蔵の古民家移築による集会所にお招きした。そのとき、翁縣長は「こんな風格のある建物を彰化縣にも欲しい」とおっしゃられた。

御蔵の集会所は、住民が主体となり、古民家を移築して建設したものである。この事業に興味をもたれた方から、「私の家もぜひ活用してほしい」との依頼があった。その民家は棟札によると、作家水上勉氏の父で大工である覚治棟梁が大正4年に建てたものであった。

まち・コミュニケーションの呼びかけで、建築を志す50名を超える学生たち(神戸大、神戸山手大、京都女子短大、神戸松蔭短大、大阪工業技術専門学校、明石高専、神戸高専)が集まった。2004年7月19日から8月14日の四週間、岡田村で合宿を張り、小原邸の解体工事に従事した。台湾からも4人の建築技術者と映像監督1人が参加している。日本語、中国語、英語が飛び交う現場で、御蔵の集会所建設からの付き合いである斉藤賢次棟梁の指導のもと、九十年前の工人の技について研鑽を積んだ。時には先生方の講義を聞き、長田のご婦人方の振る舞いを受け、「若州一滴文庫」で若狭の文化を学んだ。この夏の経験は、これから社会に出る学生たちにとって非常に貴重なものとなっただろう。多くの出会いに喜び、清々しいひと夏を岡田村に刻むことができた。今度は日本の学生たちが台湾に赴き、再建をしようではないかと台湾からの仲間と誓い合った。

我々は被災の体験を通じて、誰もが集える「場」がコミュニティには必要不可欠なものとして学んだ。共に手を動かし、汗を流すプロセスから育まれる「絆」が、「場」となる建物を生み出し、そこからまた新たな「絆」を繋ぐ。古いものが簡単に捨てられ、めまぐるしく変化する時勢の中、現代人はかつての日本に存在したこのような文化を忘れがちである。新しい発想は古いものの中から学ぶことで生まれるのではないだろうか。古民家の再生を通じ、優れた伝統文化を維持・継承することは、単なる知識を実践的な知恵へと発展させることに繋がる。まさに温故知新。

この民家は被災地である神戸と台湾、及び古民家の在り所である岡田村を建設地台湾淡水鎮結ぶ。そして世界を。

2008年11月～2009年春の建設期間を経、台湾では、古民家移築での過程を通じた国際交流と、水上勉先生の伝えられている一滴の精神を感じられる場所に使用されます。何としても台湾において、移築を実現することを切望いたしております。

日台震災交流コミュニティーセンター建設委員会  
御蔵通5・6・7丁目町づくり協議会 元会長 田中保三  
阪神・淡路大震災まち支援グループ まち・コミュニケーション  
建設ボランティア有志

## 実行委員会・応援団（所属は御受諾時の名所）

陳舜臣（作家）水上瀧子（水上勉長女）窪島誠一郎（水上勉子・無言館館主）李浩麗（台湾ソプラノ歌手）西村光弘（NPO 一滴の里事務局長）五十嵐信治（NPO 一滴の里理事長）島田誠（アートギャラリー島田）羅辰雄（株式会社 蓬莱）施蓮棠（群愛飯店南京町店）唐十郎（作家・演出家・俳優）橋本正樹（ルポライター）中津川博郷（前衆議院議員）いちむら浩一郎（衆議院議員）粘信士（台北駐大阪経済文化弁事處）李世丙（台北駐大阪経済文化弁事處）陳浩明（台北駐大阪経済文化弁事處）郭仲熙（台北駐日経済文化代表處）石川公弘（高座日台交流の会事務局長）鈴木有（木の住まい考房）高見沢邦郎（東京都立大学）西村幸夫（東京大学）佐藤滋（早稲田大学）青池憲司（映画監督）森まゆみ（作家）山岡義典（日本NPOセンター常務理事）実吉威（市民活動センター神戸）八甫谷邦明（まちづくり雑誌編集）真野洋介（東京工業大学）渡辺俊一（東京理科大学教授）林泰義（都市計画家・日本都市計画学会2000年度石川賞受賞）延藤安弘（まちの縁側育くみ隊・日本都市計画学会2001年度石川賞受賞）宮西悠司（都市計画家・日本都市計画学会2002年度石川賞受賞）山田和生（マイチケット）もず唱平（作詞家）正木義完（長安寺、煎茶道売真流家元）まち・コミ運営委員（2007年1月現在。敬称略、順不同）

## 大地のつぶやき

「まち協解散の顛末記」その後 (IV)

この論争からは何も生まれない。人間の性というものがこれ程のものとは思ってもよらなかった。震災直後から熊本県は天草から二十数回に亘り自分で法話に来て頂いた荒木正昭和尚から再三「囚われたい、囚われたい」執着心が喧嘩の元になる、と教わった。また相田みつをさんの「幸せは人間の心が決める」。心の位置を何処に執るのか解説された。「おごるなよ、おごるなよ、月のまろきもただ一夜」。多くの言葉を聞いた。今年に入って埼玉県川口市の小林眞悟和尚から「主張の強い相手を理解するためには先ず話を聞く、聞いて聞いて更に聞く、理解出来ない事に対しては質問して訊いてみる。こちらを理解してもらおうのではなく、こちらが相手を受け入れる姿勢を持つことが肝心ではないか。先ず『相手の存在を認めて尊重し合う』ところから始めないと、良い交流が出来ないと存じます」と含蓄のある便りを頂き考えさせられた。

島根県安来市広瀬町の池上幸秀和尚には「確かに世の中思うようにならぬのが常であります、人と人のつくる世の中ですから温かい心があれば善い方へ向かっていくことを信じ切って生きたいと思えます。大切なものは目に見えないものが多いですが、何しろ自分自身で気づかなければ心は動きませんから・・・」これまた貴重なお手紙をいただいた。

荒木和尚の連続法話は、プレハブや御菅の公民館で始まり、どれだけ被災者の皆さんに元気や勇氣や癒しを与え続けられたかはかり知れない。被災後のともすれば重く暗くなる心を軽くして頂きました。小林和尚、池上和尚のお手紙は余りにも真髓を突いていて、私一人には勿体なくて、皆さんにもご披露させて頂きました。「コミュニケーションはドッジボールではなくキャッチボールだ。相手が受け取り易いボールを投げる。自分が大切にされていると感じた時、多くの人は生きていて良かったと感じる」と何かで聞いた。

株式会社兵庫商会 田中保三

# まち・コミ活動報告

7/11 ~ 7/28

- |  |                          |                    |
|--|--------------------------|--------------------|
| 7/4 月刊まちコミ印刷発送作業                             | 7/13 出石市民農園(収穫祭参加)       |                    |
| 7/6 講演(名古屋市昭和区防災街づくり講座)                      | 7/15 出石市民農園              | 7/27 修学旅行下見(加納中学校) |
| 7/6 出石市民農園                                   | 7/16 区民まちづくり会議出席         | 7/28 専修大学御蔵調査合宿    |
| 7/10 研修受入(JICA「地方自治体と市民社会組織との協働関係」日本NPOセンター) | 7/19 出石市民農園              | ~7/30              |
| 7/12 出石市民農園                                  | 7/20 台湾民家移築(台湾へ) ~ 27日まで | 7/28 運営委員会(神戸)     |
|  | 7/21 台湾民家移築贈呈式           |                    |
|  | 7/24 来訪者(仙台仏教会)          |                    |

## ご支援、ありがとうございます。

7/11 ~ 7/24

### 賛助会員(新規・継続)

山本俊貞(兵庫県) 出口俊一(兵庫県) 平谷忠雄(大阪府) 市川禮子(兵庫県) 藤本宗子(徳島県) 熊田俊郎(東京都) 木村尚子(兵庫県) 平田賢一(東京都) 岡兵典(愛媛県) 岩本隆通(兵庫県) 森倉幹氏(三重県) 照屋さつ子(兵庫県) 鳴海義一(東京都) 西條遊児(兵庫県) 清水一郎(東京都) 松本なみほ(兵庫県) 中田頼雄(鳥取県) 西浦英子(兵庫県) 森下裕幸(兵庫県) 野口馨之(兵庫県)

4/25に東大阪御厨局からお振込くださった方、お名前が分からず困っています。ご連絡お待ちしております。

協力 社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県) 【順不同・敬称略】

## 新規賛助会員募集&更新のお願い

まち・コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し、金銭面でのご支援をいただいています。会費は、事業推進のために活用させていただきます。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は1年更新とさせていただきます。現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は、「月刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名の下に記載していますので、ご確認ください。)

### 会員特典

本誌「月刊まち・コミ」の送付。

まち・コミュニケーションに関する、Eメールでの情報送付、WEBの特別ページの参照

よろしくおねがいいたします。

編集後記 何年ぶりになるのか、もしかして初めてのことなのか…。今号は発行日より前に、「月刊まち・コミ」をお届けすることができました。(戸)

### 年会費

個人・法人 年間5000円  
学生 年間3000円

### 郵便振替口座番号

00950-3-42788

### 口座名称

「まち・コミュニケーション事務局」

2008年8月1日発行

編集/発行 まち・コミュニケーション

定価 100円

御蔵事務所 〒653-0014

神戸市長田区御蔵通5-5

TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961

東京事務所 〒162-0052

東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部浦野研究室内

神奈川事務所 〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1-1

専修大学文学部大矢根研究室内

e-mail m-comi@bj.wakwak.com

URL http://park15.wakwak.com/~m-comi/